

2 稲の始まり

稲の苗が、飛んでいる山鳥、山鳥がね、稲の穂をどこかで食べて、この糞からね、糞からこの田んぼぐわーに落としてね、これから始まったという伝えはあるけれど。

それから、これは大事なもんだねといって、人が見つけて、この種から広がったという話はあるけどね。それ一般に大々的に広がったという話もある。

百名のね、^{ひゃくな}受水^{うきんじゅ}という川。受水^{うきんじゅ}・走水^{はいんじゅ}といってね。一か所の川は滝から落ちてきて流れて、一か所はまた流れて行くと、走水^{うきんじゅ}といって。受水^{うきんじゅ}・走水^{はいんじゅ}というところ。三坪ぐらいないかね、この田んぼは。

字伊原 玉城ハル

類話

字糸満 玉城マシ

字北波平 大城正太郎

字兼城 金城 文

字豊原 国吉マツ、金城カマド

字真栄里 德里実盛、宮里カメ

字真栄平 大城加那、名嘉真朝昌

字新垣 宜野座仁一郎

字名城 新垣武雄

字糸洲 神里カマ

字東里 玉城佐一郎（東辺名区）

字東里 上良武定（上里区）

字摩文仁 伊集盛亀

字大度 高嶺 正

字伊原 上原孝助、酒屋ヤス